

**製品名: PPM1A マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81143**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA,FC
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	42.4kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPM1A
別名	PP2CA; PP2Calpha; PP2C-ALPHA
遺伝子 ID	5494.0
SwissProt ID	P20265
免疫原	大腸菌で発現したヒト PPM1A (AA: 202-382) の精製された組み換え断片。

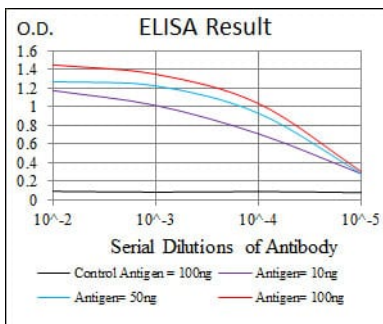
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr タンパク質ホスファターゼの PP2C ファミリーのメンバーです。PP2C ファミリーのメンバーは、細胞ストレス応答経路の負の調節因子として知られています。このホスファターゼは、MAP キナーゼおよび

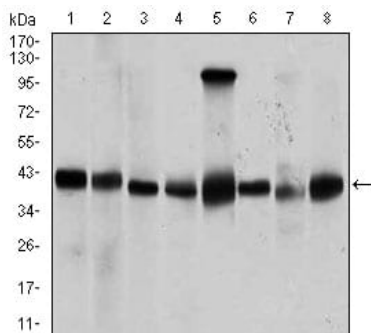
MAPキナーゼ/キナーゼを脱リン酸化して、その活性を負に制御します。環境ストレスによって誘導される p38 および JNK キナーゼカスケードの活性化を阻害することが示されている。このホスファターゼはサイクリン依存性キナーゼも脱リン酸化できるため、細胞周期制御に関与している可能性があります。このホスファターゼの過剰発現は、腫瘍抑制遺伝子 TP53/p53 の発現を活性化し、G2/M細胞周期停止およびアポトーシスを引き起こすことが報告されています。異なるアイソフォームをコードする3つの選択的スプライシング転写バリエーションが記載されています。

## 研究分野

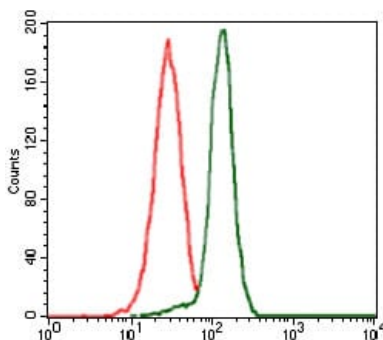
## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



PPM1A マウス mAb を用いた Jurkat (1)、Jurkat (2)、A431 (3)、HeLa (4)、HEK293 (5)、Raji (6)、MCF-7 (7)、および COS7 (8)細胞溶解物に対するウエスタンブロット解析。



PPM1A マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。